

米8月失業率は3.8%に上昇

～雇員数は18.7万人増と予想を上回る～

◆労働参加率が2020年2月以来の高水準

9月1日発表の米8月雇用統計では、非農業部門雇員数が前月比+18.7万人と、市場予想(+17.0万人)を上回りました。ただ、6月分(+18.5万人→+10.5万人)と7月分(+18.7万人→+15.7万人)は計11万人の下方修正となりました。

失業率は3.8%と前月実績や市場予想(ともに3.5%)を上回りました。労働参加率は62.8%と、5カ月ぶりに上昇し、2020年2月以来の高い水準となりました。こうしたもとで、民間平均時給は前年同月比+4.3%と前月実績(同+4.4%)を下回りました。

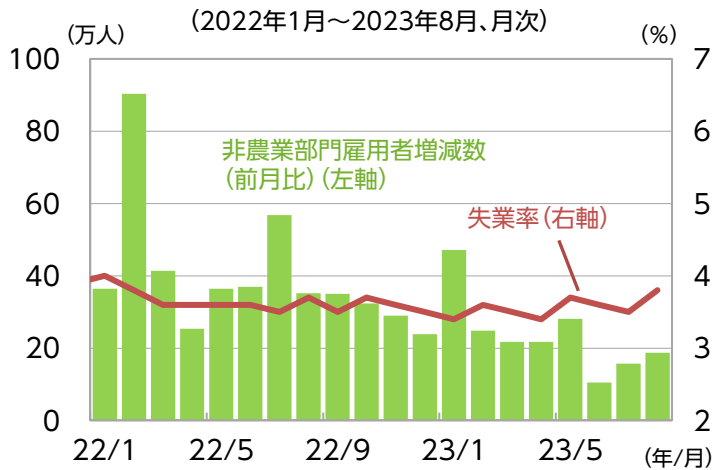
8月雇用統計は、労働参加率の上昇を伴った失業率の悪化や、平均時給上昇率の伸び率鈍化から、米国の労働市場における過度の需給ひっ迫状態が徐々に和らいでいることを示す結果となりました。

◆市場の反応、今後の焦点

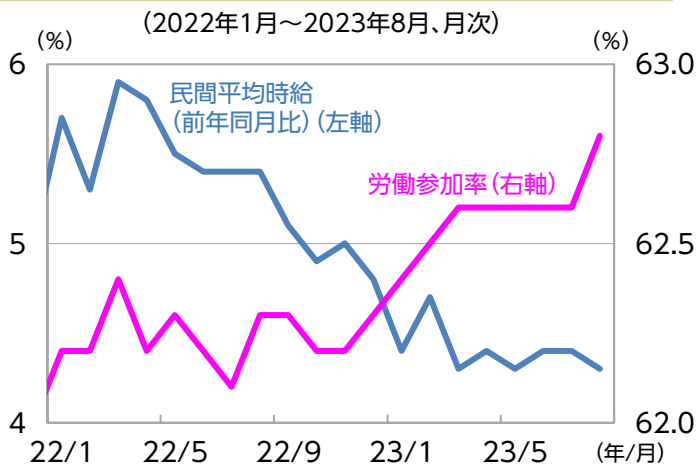
1日の米国市場では、雇用統計を受けて、FRB(米連邦準備理事会)の利上げ打ち止め観測が一段と強まりました。米長期金利は統計公表直後に一時4.05%台に低下しました。ただ、その後に公表された米8月ISM(米供給管理協会)製造業景況指数が予想を上回ったこと、グリーンブランド地区連銀総裁によるタカ派的な発言があったこと、前日まで金利低下が進んでいた反動等により、終盤は上昇に転じました。為替市場では、公表直後に一時1ドル=144円台半ばまでドルが軟化しましたが、長期金利の反発を受けて1ドル=146円台に値を戻しました。NYダウは一時前日比250ドル超の上昇となる場面がありましたが、長期金利上昇を嫌気して中盤以降に伸び悩みました。ナスダック総合指数は反落して取引を終えました。

9月19-20日に予定される次回FOMC(米連邦公開市場委員会)では追加利上げが見送られるとの見方が有力です。他方、同日に示される2024年末や長期スパンの政策金利の見通しを巡っては市場の見方は定まっていない状況です。金融市場は引き続き、FRBの政策運営スタンスを注意深く見極めていくことになりそうです。

【図1】非農業部門雇員増減数と失業率



【図2】民間平均時給と労働参加率



【図3】海外金融市場の動向

	9月1日	前日比	
	終値	変化幅	騰落率 (%)
NYダウ (米)	34,837.71	115.80	0.33
S&P500 (米)	4,515.77	8.11	0.18
ナスダック総合 (米)	14,031.81	▲3.16	▲0.02
FTSE100 (英)	7,464.54	25.41	0.34
DAX (ドイツ)	15,840.34	▲106.74	▲0.67
米国10年国債利回り	4.18%	0.07	-
米ドル/円 (円) ※	146.22	0.68	0.47
WTI原油先物	85.55	1.92	2.30

※米国市場の終値

(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。